

2022年度（令和4年度）事業活動報告書

法人の名称 特定非営利活動法人グリーンママ

1 事業の成果

(1) 育児支援に関する事業

「みどりっこ親子の居場所はなまる」（以下はなまる）「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」（以下いっぽ）の運営、『みどりっこカレンダー』『みどりっこひろば』を通じた子育てに関する情報の提供など行い一定の成果を上げた。

はなまるでは、利用者数が増え、感染対策をとりながら日々親子を迎え入れている。移転してすぐ感染が拡大したため、いまのひろばでできることを考えながら、安心して過ごしてもらえる居場所になるよう運営した。一時預かりの利用も増えており、スタッフを増やしながらい理由を問わない預かりに可能な限り対応した。

いっぽでは、「子育て家庭を地域で見守る芽を育てていく」ことを重点目標におき、地域に出向く取組みを積極的に行った。また、妊娠期からの支援にも力をいれた。父親の利用も増えており、多様な養育者が気兼ねなく利用できる場になるよう工夫した。

(2) 障がいのある子どもと親への支援事業

はなまるの移転に伴い、子どもの発達に不安のある親が集える居場所の中山での開催を休止していたが、今年度より中山地域ケアプラザを会場に交流できる場「なないろ☆ほっとタイム」を始めた。はなまる・いっぽと中山地域ケアプラザとの共催とし、参加者同士で情報交換できる場とした。いままではなまるやいっぽの交流の場に参加していた小学校・中学校の子どもを持つ方に声をかけ、体験を話してもらうなどして、様々な年齢の子を持つ親同士の交流ができています。いっぽでは引き続き「気になる子のサロン」を実施し、親同士が気軽に話せる場を増やすことができました。

(3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

いっぽにて学生のボランティアや実習受け入れを行い、これから親になる学生が乳幼児とふれあえる機会を提供した。

2 事業内容

(1) 育児支援に関する事業

①「みどりっこ親子の居場所はなまる」の運営

実施日時	月～金曜日 午前9時30分～午後4時45分 土曜日（月1回）午前9時30分～午後2時30分
実施場所	みどりっこ親子の居場所はなまる
従事者	2人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者（おもに0～3歳児）
支出額	8,813,312円
事業実績	<ひろば> 年間利用者数（大人・子ども）：3,715人（3,105人） （）内数値は前年度実績 一日当たりの平均利用者数：14.9人（12.5人） 新規登録組数（子どもの数）：190人（184人） *前年度2か月休館期間あり <一時預かり> のべ預かり児童数：260人（165人） 総利用時間数：721.75時間（446.5時間）

【1年間の報告】

- ・感染症拡大防止のため昼食時に30分間休館にし、広場設備やおもちゃ等の消毒を行った。それに伴いひろばの開始時間と終了時間の前後に15分追加し、開館時間を9:45～12:45、13:15～16:15とした。
- ・プログラムでは、年代別で過ごせる時間帯（「あかちゃんタイム」・「あかちゃんと楽しもう」・「1歳児と遊ぼう！」）が1年を通して、人気であった。
- ・「マタニティタイム」の周知として、区での母親教室・プレパパママ講座・拠点で行っているプレパパママ講座でチラシの配布をお願いしているが、周知が難しい。プログラムに参加された方は出産後のひろば利用につながっている。

- ・コロナ禍での行き場所として来所された親子がひろばに求めていることを、一人ひとり丁寧に対応できるよう努めた。
- ・いっぽが行っている出張公園遊びや区の保育園主催の「みどりっこまつり」に、はなまるとしてスタッフも参加させてもらい、参加者だけでなく地域の支援者とも交流がもてた。
- ・発達に不安等のあるお子さんをお持ちの親が集える場が休止中であったが、いっぽや中山地域ケアプラザのご協力をいただき、中山地域で「なないろ★ほっとタイム」を再開した。
- ・一時預かりは4月の利用が若干少なかったが、年間を通して利用者が途切れる事はなく、年度末に向け増加していった。年齢別では50%が1歳児利用で、理由には、リフレッシュ、通院が多かった。コロナ対策のため、現在もひろばでの食事はできないが昼食が必要なお子さんを預かる場合は、別室にて対応をしている。また、昼食時のひろば休館中も、一時預かりは行っている。

②「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」の運営

- ア. 「親子の居場所事業」「子育て相談事業」「情報収集・提供事業」「ネットワーク事業」「人材育成・活動支援事業」「利用者支援事業」

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	7人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	38,652,468円
事業実績	年間利用者数(大人・子ども): 20,168人(18,238人) 一日当たりの平均利用者数: 83.3人(74.7人)
()内数値は前年度実績	累計登録者数(子ども): 4,262人(4,334人) 令和3年度新規登録者数(子ども): 791人(662人)
*前年度2か月休館期間あり	新規ボランティア登録人 31人(9人) 年間ボランティアのべ活動者数 605人(426人) 利用者支援事業相談件数 458件(319件)

【1年間の報告】

1. 地域に出向く機会を増やし、各地区の支援者とのつながりを深めた
 - ・区内の公園に出向く公園遊びを15か所で行い、のべ158組の親子の参加があった。実施する公園の近くにあるつどいの広場、地域ケアプラザ、保育園等に声をかけ、地域の親子への周知や、当日の参加協力が得られた。
2. 養育者の声を聞き、支援者に伝える機会を増やした
 - ・「緑区内の子育て支援に関するアンケート」を、区役所の乳幼児健診時に実施し、地域資源利用の様子や利用しての効果など聞いた。回答者の69%が支援の場を利用したことがあるという回答だった。効果等については、2023年度に報告書にまとめ、区内の子育て支援関連の連絡会や定例会で配布・報告を行う。アンケート回収率は82.7%と高く、自由記入欄への記載も多くあり、「緑が多く子育てしやすい」という声が多かった。
 - ・広く地域に向けて子育て世代の様子を伝える広報紙「みどりング」を創刊した。緑区の民生委員主任児童委員全員への配布や、子育て支援関連以外の定例会等での配布を行い、多くの人の子育て世代に目を向けてもらう機会を増やした。
3. プレママ・プレママに向けた取り組みを行い、妊娠期からの支援につなげた
 - ・妊娠期からの支援「親になる前の支援事業」として、「プレパパ!!あつまれ～!先輩パパによる赤ちゃんのいる生活講座」を実施した。父親講師を依頼し、グループワークにはひろばを利用する先輩パパも入ってもらうなど、父親に向けた内容の講座とした。ひろばを利用する月齢の低い子どもを持つ親にアンケートをとり、プレパパ・ママへのメッセージをまとめた配布物は、生の子育ての様子がわかると好評だった。
4. 利用者ボランティアの活動が活発になった
 - ・ひろばの利用者のうち、子どもの入園などで、子連れでない活動ができる方に声掛けをしてプログラムに入ってもらい取り組みを始めた。利用者に近い存在として、交流進めてくれている。
 - ・利用者がテーマを発案する「ママのしゃべりば」の開催が増えた。利用者による活動も継続して行われており、主体的に利用者する人が増えている。

5. 利用者支援事業

- ・子育てパートナー出張相談を区内全てのつどいの広場で行い、いっぽまでは距離があるという人の話を聴くことができた。はなまる、中山地域ケアプラザと共催している「なないろ★ほっとタイム」も、中山地区への出張相談の場になっている。
- ・利用者支援の相談件数が増えた。相談内容は、生活について、親自身について、発達についての順に件数が多いが、今年度は「なないろ★ほっとタイム」が始まったこともあり、発達についての相談内容の割合が増えた。

イ. 「横浜子育てサポートシステム」緑区支部運営

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	3人/1日
対象	横浜市在住の0歳から小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	9,720,039円
事業実績 ()内数値は前年度実績	<p>会員数：利用会員794人(737人) 提供両方会員228人(220人) 令和4年度入会者数：利用会員252人(231人) 提供両方会員29人(21人) コーディネート件数：242件(189件) 実働会員数：利用会員のべ897人(733人) 提供・両方会員のべ703人(590人) 活動件数：4,458件(4,553件) 入会説明会：45回実施 248人参加(38回191人) 〈うち利用会員214人・提供・両方会員34人〉 個別説明：74人参加〈利用会員69人 提供・両方会員5人〉(83人) フォローアップ研修：10/25 9人参加 12/2(社協と共催)3人参加 交流会：6/29 5人参加 11/8 3人参加 子育てサポート通信：3回発行 「いっぽ保育隊」：活動件数61件 のべ活動者78人 保育子ども333人 (活動件数51件 のべ活動者66人 保育子ども224人)</p>

【1年間の報告】

- ・ケアプラザやつどいの広場等での出張説明会を開催したり、オンライン説明会を開催するなど参加しやすいように工夫を重ね、参加者数、入会者数とも昨年度を上回る結果となった。
- ・提供会員募集の周知する先を検討し、小学校の保護者、小学校入学予定児童の保護者等に加え、中学校の保護者にも事業周知のチラシの配布を行った。事業への問い合わせが増えて入会説明会への参加、入会につながった。
- ・提供会員増員のため、新しい試みとして北部4区(青葉区・都筑区・港北区・緑区)共催で提供・両方会員研修会を開催した。他区支部との共催だったため、他区支部のスタッフとの交流もあり学びの場ともなった。
- ・提供会員予定者研修会終了後、提供会員が活動に自信を持って取り組めるように会員交流会やひろば預かりの機会を設けた。

③子育てに関する情報の発信・提供

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児とその保護者
支出額	1,297,052円
事業実績	<p>『みどりっ子カレンダー』:毎月1000部発行、掲載園 33園、配布先53か所 『みどりっこひろば』:随時情報更新 『みどりっこひろば』メールマガジン:毎月発行 574人登録(前年度526人) 『みどり子育て応援ガイドブック』改訂版編集 『みどりリング』:年3回発行、3500部発行</p>

【1年間の報告】

- ・区内の保育施設の地域開放事業を紹介する『みどりっ子カレンダー』では、保育園 28 園、幼稚園 5 園の情報を掲載している。今年度掲載保育園が 5 園増えたので一部レイアウトの変更を行った。毎月 4 ページ目には、簡単な工作などコラムを掲載し、役立つ情報を提供した。
- ・緑区の子育て情報サイト『みどりっこひろば』では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため流動的になっていたイベントや子育てサロンの開催状況の確認のため、利用者だけでなく支援者からも利用される機会が増えたと感じている。最新の情報が提供できるよう、情報収集に力をいれた。
- ・いっぼの事業の中で創刊した「みどリング」は、乳幼児を育てる世代について幅広い世代に知ってもらい、子育て家庭をあたたく見守る地域づくりに寄与できればと紙面を作成した。

④集団出張保育

実施日時	通年
実施場所	活動なし
従事者	登録スタッフ 30 人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	0 円
事業実績	定期託児：なし 出張保育：なし (前年度 1 回 保育子ども 1 人 スタッフ 1 人)

【1年間の報告】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント等の開催が減っていることもあり、託児の依頼はなかった。スポーツセンター託児付き定期教室も再開されなかった。

⑤地域に向けた子育て支援の促進事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぼほか
従事者	3 人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	339,404 円

【1年間の報告】

- ・緑区子ども家庭支援課より受託している「赤ちゃん教室」中山会場、長津田会場の運営・進行を行った。中山会場でははなまるの利用につながる声掛けを行い、長津田会場では長津田地区の子育て情報を提供した。
- ・参加している地域の連絡会等は、ほとんどが対面開催となり、顔の見える関係づくりの場として積極的に参加した。いっぼで発行した「みどリング」を配布し、子育て家庭について伝える機会とした。今年度より「横浜市北部地域療育センター」の運営委員会に出席している。地域での支援に力を入れていくというセンターの方針を聞き、地域での支援の場としての役割を確認した。

<参加している緑区内の委員会・団体等>

「緑区地域施設間連携会議」

「緑区要保護児童対策地域協議会」いっぼ、はなまるともに参加

「緑区セイフティネット会議」

「十日市場施設間連携会議」

「緑区読書活動推進連絡会」

「緑区防災ネットワーク運営委員会」

「横浜市バリアフリー検討協議会緑区支部」

「緑区市民活動支援センター運営委員会」(運営委員 木村真佐子)

「横浜市北部地域療育センター運営協議会」

「緑区国際交流ラウンジ」(運営法人理事 松浦千恵)

「緑区地域自立支援協議会子ども支援部会」

「みどり障がい児者ネットワーク」

「緑区社会福祉協議会NPO等分科会」
「子育てひろば全国連絡協議会」正会員
「十日市場自治会」特別会員
「新治西部地区社会福祉協議会」会員

(2) 障がいのある子どもと親への支援事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児及び小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	54,086円
事業実績	気になる子のサロン 年間12回実施126人(大人67人・子ども59人)参加 (前年度12回実施・131人参加) なないろ★ほっとタイム 年間11回実施92人(大人50人・子ども42人)先輩ママ18人参加

【1年間の報告】

- ・いっぽで行っている「気になる子のサロン」では、引き続き母親同士が気軽に話すことができる場を提供するとともに、年2回、休館日である月曜日にひろばを開放した。北部療育センターの職員が同席する回も設け、情報提供や、相談に対応してもらうことができた。
- ・4月より「なないろ★ほっとタイム」を開始した。はなまる・いっぽ・中山地域ケアプラザの共催で、中山地区に交流の場を設定することができた。「就園について」「就学について」「児童発達支援事業所について」などテーマを設けた情報交換の場とし、毎回先輩ママに参加してもらい体験など話してもらった。先輩ママからは参加することが自身の子育てを振り返る機会にもなり、新たな気づきや学びにつながったとの声があった。
- ・事業をとおして近隣の児童発達支援事業所などとのつながりができた。

(3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	3人
対象	地域の中学生・高校生、福祉・子育て関連職に就く者
支出額	0円(主にいっぽの事業の中で行った)
事業実績	学生ボランティア のべ44人(66人) 大学等実習生受入れ 25人(22人)

【1年間の報告】

- ・近隣中学校を經由してのボランティア活動や職場体験は今年度も感染防止のため中止となった。緑区社会福祉協議会ボランティアセンターからの紹介で個別でのボランティア希望の学生は少しずつ増えており、本人の希望を聞きながら活動してもらった。
- ・看護学校(横浜創英大学・横浜実践看護専門学校)の母性看護学実習や、NPOインターンシップの受入れを人数を制限して行い、それぞれの学びにつなげることができた。学生との交流は親子にとってもよい経験ができる場になっている。

2022年度(令和4年度) 事業費合計 58,876,361円